

みんながあたたかくつながれる 居場所づくり

群馬県みどり市 とまり木

とまり木とは

学校でも家庭でもない居場所をつくりたい、いつの時代でも子どもたちにキラキラしてほしい…そう思い、子どもの居場所づくり“に取組んでいます。

とまり木は平成28年10月、自らの子育てが終わりつつある女性7人で立ち上げました。自身の子育てを通し、その環境についていろいろ感じてきた仲間です。現在は役員6人、正会員29人、賛助会員2人、パートナーシップ会員（企業・団体会員）41団体で構成しています。

とまり木という名称には、子どもたちの、そして地域のとまり木でありたいという思いを込めています。木にはいろいろな鳥がやっ

てきます。その目的は餌をついばむためであったり、羽を休めるためであったり、仲間との時間を過ごすためであったり、または、一人の時間を過ごすためであったりとそれぞれです。目的なんてない！という鳥も大歓迎です。また、リスやヘビ、どんな生き物も大歓迎です。私たちはそのような誰もがふらっと立ち寄れる“とまり木”を目指しています。

ふらっと立ち寄ったところは、見たことのあるおばちゃんたちがいる学校でも家庭でもない居場所。立ち寄る鳥たちもいろいろならば、迎えるおばちゃんたちもいろいろ。そして、そこで出会う一言、目に映る人の姿や光景が、子どもたちに響き、子どもたちのチカラになると嬉しいと考えています。世の中には親・先生以外にもいろいろな大人がいて、いろいろ



とまり木食事会の様子。みんなでいただきます～す





食事の前に、宿題やっちゃおう！

るな考え方や視点があることを感じてもらいたいと思っています。そして、その大人はすぐ近くにいることも子どもたちに知らせたいと思っています。

私たちの理念は「みんながあたりかたくつながられる場所を提供する。子どもの成長と子育てを支援する」、行動基準は「地域ぐるみでひとりひとりの子どもを育む取り組み」です。事業としては、①放課後の居場所づくり、②子どもへの学習サポート、③こども食堂、④地域のひととの交流、⑤大人の学び場を展開していきたいと考えています。事業に取り組み時には常にこの理念と行動基準に立ち返り、実施するか否か、実施方法を検討しながら活動

進めています。この理念と行動基準は、私たちが常に立ち帰ることのできる大切なプラットフォームです。

とまり木の活動

やりたいことはあっても場所がない、お金がない…という現実問題をなかなかクリアできず、まずは、できることから始めようと考え、市の施設「みどり市介護予防複合施設いきいきセンター」で月に一度、第2金曜日夕方から「とまり木食事会」を開催してきました。

とまり木食事会は、地域の皆さんからの食材提供、ボランティア参加のご協力をいただき、高校生以下無料、大人300円(協賛金)で、毎回約70食の食事を提供していますが、好評



お弁当準備。食材の多くは地域の皆様からのご寄付です

で参加受付は開始から数日で締め切らなければならぬ状態です。実施にあたっては、地域の学校、区長会への理解を求め、桐生保健所の営業許可を取得、多くのメンバーが食品衛生責任者の資格を取得しました。周知については、市教育委員会、子ども課にご協力いただき、保育園・幼稚園・小中学校・市内各施設にチラシを配布し、回覧板にも入れさせていただきます。

続けていると、本当に支援が必要な家庭も見えてきます。私たちが必要な？と思ってお誘いする参加者の方もできます。その方々には、お帰りの際にあまった食材をお持ち帰りいただくこともあります。しかし、私たちの食事会は、貧困にスポットを当てた活動ではありません。居場所づくりの一環としての「食」です。地域の子どもたちにおなかいっぱい食べてほしいと願うなかで、一人でも多くの子どもがチカラになれると嬉しいと思っています。

食事会開催時間は午後4時から8時です。子どもたちは来場すると、なぜか宿題を始めます。高校生や教員を退職した方にボランティアで学習サポートをお願いすることもあります。個人的に参加してくださる方もいらっしやれば、子どもたちの学習から遊びまで、まとめて面倒をみてくださる大間々高校インターアクト部の協力も得ています。また、昨年はみどり市



お弁当配布会場。アクリル板を用意、検温も実施します

公民館主催の夏休み事業に参加協力し、子どもたちを見守り、勉強のお手伝いをしました。

家庭教育支援事業としてワークショップ「通園バッグをつくろう」も実施しました。通園バッグは、子どもが初めて社会に出る際に持つ必需品。そのバッグを送り出すお母さんへ心を込めて作る経験をしてほしい、お母さんの見守る気持ちが込められたバッグを持って子どもたちに社会デビューしてほしいという願いを込めて実施しました。群馬県からの寄付金でミシンを購入し、ミシンが苦手なお母さんにも2時間で裏地付きの「通園バッグ」を作ってもらえるように工夫しました。また、お母さんに安心して参加してもらうため託児も準備しました。群馬医療福祉大学の学生にもボランティアスタッフとして参加していただきました。親子のあたたかい関係づくりを

サポートする事業になったと思っています。

とまり木の理想は高く、なかなか思い通りにいかない状態です。コミュニティの形は時代により変わるものだと思います。その流れに子どもがポツリと置き去りにならないように、とまり木の仲間を増やし、次の世代につなぎ、地域で子育てできる仕組みを構築していきたいと考えています。

状況にあわせた柔軟な活動を

このように歩みを続けていたところ、新型コロナウイルスが日本に上陸し、現在に至っています。

私たちは密を避ける生活へのシフトにより、食事を実施することができなくなりました。状況に合った私たちの活動はどこにあるのか考えている最中、サポート企業様から、お弁当を100食お預かりし、それを配布する役目をいただきました。その活動を経験させていただいたことで、私たちは食事を開催しても参加できなかった子どもたちや保護者の皆さんにも、お弁当を受け取りにလာられる方がいることに気づきました。お弁当配布であれば、私たちがもっと子どもたちの近くに向くこともできるのではないかとも思いました。そして、市教育委員会、市内の各小学校のご理解・ご協力をいただき、会場とし



おいしく召し上がっていただきたい…と願いを込めて

てお借りできる学校に通う児童のご家庭を対象に希望をとり、無料でお弁当を配布し、同会場にオリジナル缶バッチ作りコーナーも設置し、出前とまり木食事を実施してきました。今は感染者が増えている状況により延期にしていますが、この経験を通し、状況にあわせた柔軟な活動をしていく道が見えてきました。そして、私たちの活動は、やはり地域の皆様のご理解とご協力がなければ続かないことも改めて実感しました。

とまり木はまだまだ小さな木ですが、今後も地域の皆さんに水分・栄養分・太陽の光を頂きながら、それをパワーにして成長していきたいと思っています。

(とまり木会長 板谷章子)